臺灣日日新報 昭和十五年十二月三十一日（火曜日） 第一万四千六百五十八號 （一）

臺灣日日新報

（第二版） （明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

本日四頁
作新日江人行所
社報新日日臺灣新聞社

新聞には 新マツダ

南昌西方壯烈な殲滅戰

【南昌二十日發同盟】南昌西方十粁の北山、太陽嶺、南形山等一帶の敵は昨年末以來我が攻撃軍の包圍下に在り、殊に十二、十三兩日の攻撃に依り敵は遂に潰滅し殘敵は十二月十八日夜半を期し一齊に南方に向ひ潰走を開始したが我が軍は之を追撃して殲滅的打撃を與へ十九日午前十時迄に南昌西方十粁の地點に於て殘敵を掃蕩し南昌西方一帶の敵は全く潰滅した

海鷲浙贛線を爆撃

【○○基地二十日發同盟】中支那方面航空部隊は三十八、九の兩日に亙り浙贛線（金華衢州間）及び贛粵線（金華贛州間）に出動敵を發見これを猛爆し多大の戰果を擧げた

本年度對支綜合戰果

大本營陸軍報道部發表

【東京二十九日發同盟】陸軍の冬季攻勢作戰は十二月に入るや愈々熾烈となり我が軍は五年有餘に亙る作戰の成果を鞏固ならしむると共に更に新たなる飛躍を期すべく各地に於て積極的攻勢を採つたが就中十二月中旬以降は我が軍の攻勢は一層猛烈となり敵は到る處に於て潰滅的打撃を受け其の殘存部隊は或は四散し或は我が軍の包圍下に入つて降伏するに至つた

一、本年度對支綜合戰果

二、我が中支の戰鬪と對峙の強行

三、國民政府の動搖と重慶の孤立

四、我が軍の戰鬪と對峙の強行

五、本年度に於ける主なる作戰と戰果

日佛東京初會談

經濟問題に付意見交換

【東京二十日發同盟】第一回日佛經濟協力委員會は二十日午前十時より外務省大會議室に於いて開催されたが午前中は總會を開き午後は分科會に分れて審議を行つた

翼賛會を改組

政府具體案研究に着手

【東京二十日發同盟】政府と翼賛會當局との間に於ては翼賛會の強化擴充に關する具體案を研究中であるが其の骨子は翼賛會を改組して中央に於ては翼賛會の組織を擴大強化すると共に地方に於ては翼賛會と地方行政協議會とを一元的に運營し以て翼賛會と政府との關係の明確化を圖り翼賛會を政府の機關たらしめ翼賛會の組織を簡素化すると共に地方に於ける翼賛會の組織を擴大強化し

社說

歷史的昭和十五年を送る

本年はあらゆる意味に於て無比的に記憶さるべき時代に於てあつた。一年に二度の紀元祭を行つたこと、近衛第二次内閣が成立したことなど、この歷史的時代に第一步を印むべき前提であつた。特に米内内閣を倒壞せしめた陸軍の態度にもみられる如く、國防國策に關しては近衛新體制の名の下に政黨をめぐらしたとうこうあり、又この外交體制に於ても、日獨伊三國同盟問題の處理に關しても、又この外交體制の確立に關聯して、最近の國內政治體制の强化に關しても、國民の多くが重大關心を拂つた問題であつた。

而して之等の諸問題の處理に關しては、常に國民の輿論が大きな動向を示したことは、昭和十五年を通じての最も著しい特徴であつたといはねばならない。

われらはここに過ぎ去りし昭和十五年を顧みて、いよいよ本日の偉大時局に處すべき心構へを新たにせんと欲するものである。

官吏制度改革

現代國家の如き複雜なる機構を有する國家の運營に當つては、官吏制度の如何が、その國家の興隆に重大なる關係を有することは今更贅言を要しないところである。

臺灣工業化の重點

林臺電社長談

臺灣電力株式會社長林熊徴氏は、臺灣の電力問題に關し、次の如く語つた。

臺灣電力會社は、昭和十二年下期より、臺灣の工業化に對する電力の供給を開始したが、當時は臺灣の工業化は未だ緒に就いたばかりであつたので、電力の需要は極めて僅少であつた。

然るに、昭和十三年下期より、臺灣の工業化は急速に進展し、電力の需要は激增するに至つたので、會社は之が對策として、昭和十三年下期より、日月潭第一發電所の擴張工事に着手し、昭和十五年下期に、その第一期工事を完成し、更に昭和十六年下期には、第二期工事を完成する豫定である。

協力と能率增進へ

副見交通局總長語る

藤原前商相

鳥內觀察月程

米作用の導水パイプ製造終る

日糖の異動

人造ゴム

豚肉配給

基本理念と指導者原理

經濟新體制

昭和十五年の財政經濟を回顧

全國天氣圖を放送

空と海に"安全"の報せ

文藝春秋

新體制下の生活記

國民はかう思ふ

新年特別號

讀物第一號

讀物傑作滿載の新春特大號

馬

皚々の砂熱

日滿支興亞三人娘

白蘭の歌

燃ゆる大空

松竹大船 曉に祈る

丸久式製粉機

菊一文字刀劍部

華化ミルクで革化クリーム

良藥五拾錢分無代進呈

動脈硬化・早老性衰弱に

ネオネオゲン

血壓の亢進を引下げ引下げ體力の衰退を挽回する研究

脂肪が溜つて血管と管煙たつ話の

全國天氣圖を放送

空と海に〝安全〟の報せ

【東京三十日發同盟】陸軍中の統帥部その他一般官衙並に民間の氣象觀測を綜合統一する天氣豫報中央機關が愈々來年一月一日から發足することになつた、これまで氣象觀測は陸軍、海軍、中央氣象臺、各地方廳、各測候所、各學校、各會社、各個人等が夫々獨自の立場から觀測し、豫報を發表してゐたが、これを一元的に統一して、觀測網を擴充し、觀測技術を向上し、豫報の的中率を高めるとともに、觀測豫報の重複を避けて經費の節約を圖り、且つ觀測豫報の發表を迅速にして國防上並に産業上の利便を與へようといふのである、この中央氣象機關は中央氣象臺を中心とし、陸軍、海軍、中央氣象臺、各地方廳、各測候所、各學校、各會社、各個人等の觀測豫報を統一して發表するもので、從來の觀測豫報の發表機關は從來通りとし、新たに發表機關を設けるのではない、この中央氣象機關の觀測豫報は、陸軍、海軍、中央氣象臺、各地方廳、各測候所、各學校、各會社、各個人等に對し、從來通り觀測豫報を發表するやうに指導し、觀測豫報の發表を統一するものである

平行線は出會ふ
家庭でもわかる高等數學

數理は自然と共に古く、この二つの學問は多少なりとも、このような學問に相關するものであるかを知れない。そしてこの紙ストリップは數學者にとつて、この二つの學問のやうな關係にあるのだらう。ところが數學はうでもない。第一にしたがつて、第六圖のやうな紙帶を、同じようにこの二つの學問を持つたりうどと、次に、レトルトが出來にくいと、第七